

## 1-2 伊豆衝突帯の地震活動調査によるプレート構造調査研究

### ( 1 ) 平成 21 年度の進捗状況

- ・平成 20 年度までに設置した神奈川県内 6 箇所の地震観測点を維持管理し、観測を継続している(図 1)。
- ・平成 21 年度新たに設置する 4 箇所においては、掘削工事はほぼ終了した。2 月末～3 月初旬には地震データを配信する予定である(図 1)。
- ・伊豆衝突帯(神奈川県西部)において、メカニズム解や圧縮軸方向(図 2)を決定し、その特徴を検討した。
- ・伊豆衝突帯(神奈川県西部)において、機動的観測点 10 点と温地研等の定常観測点を加え、トモグラフィーを実施した(図 3)。
- ・研究活動等は地震研彙報に投稿。

### ( 2 ) 平成 22 年度～23 年度の実施計画

#### 平成 22 年度

- ・神奈川県内地震観測点(10 点)の維持管理。
- ・伊豆衝突帯(神奈川県西部)において、トモグラフィー解析のためのデータ追加。
- ・伊豆衝突帯(神奈川県西部)における観測点整備完了に伴うメカニズム解から推定した伊豆衝突帯応力区分化と S 波スプリットング解析を進める。

#### 平成 23 年度

- ・神奈川県内地震観測点(10 点)の維持管理。
- ・伊豆衝突帯応力区分化と S 波スプリットング解析。

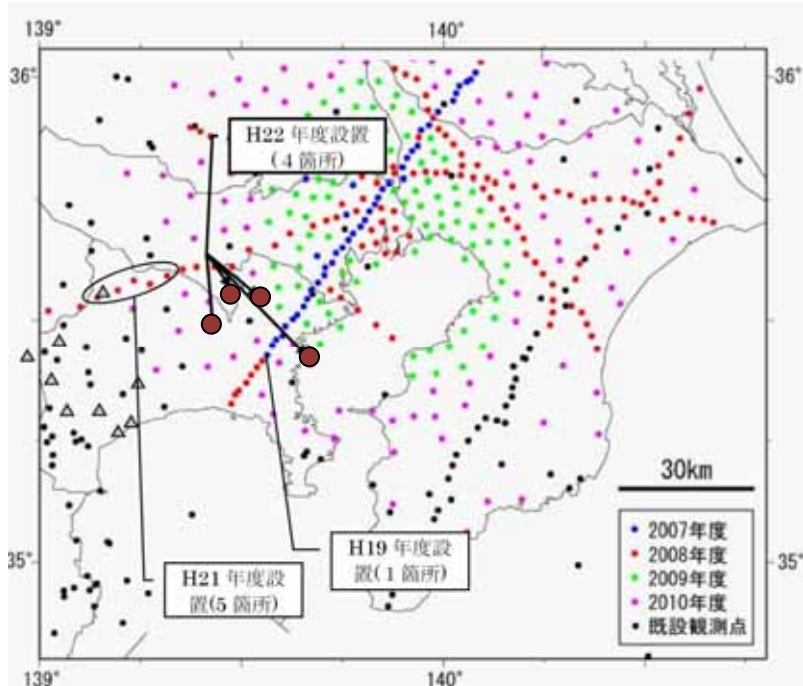


図1 首都直下地震防災・減災特別プロジェクト観測点配置と温地研担当観測点

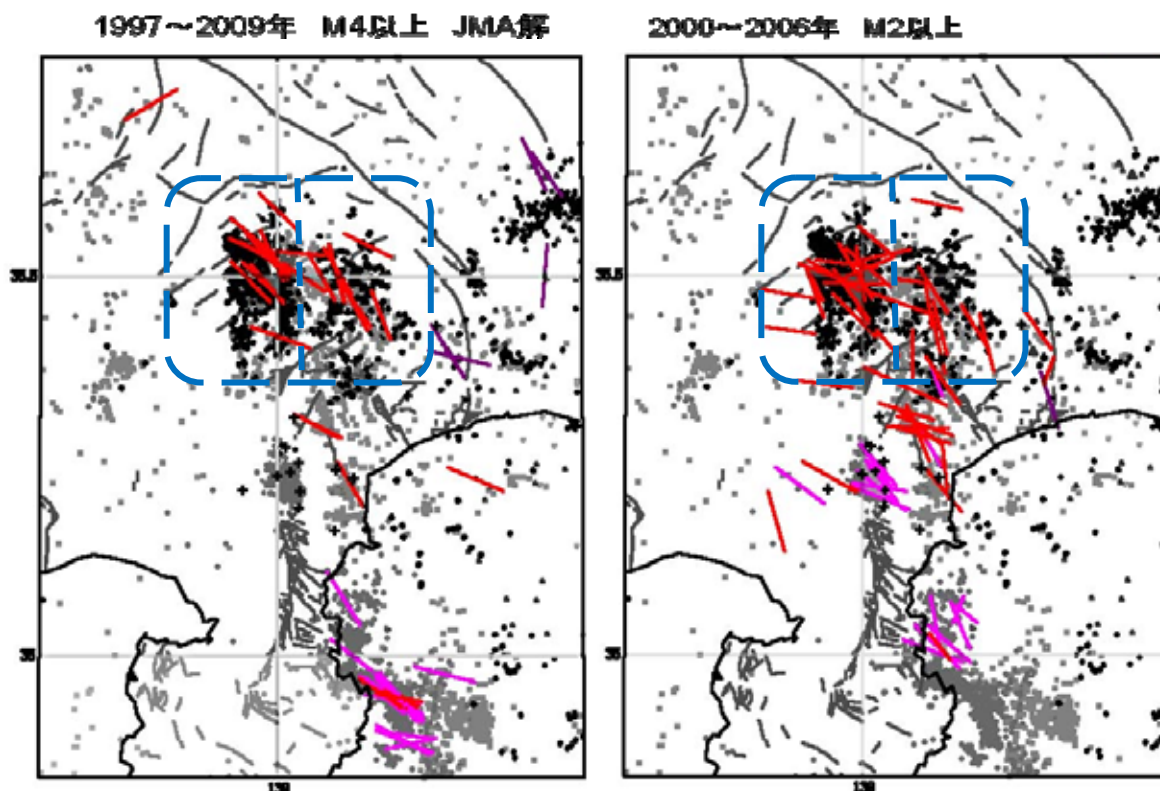


図2 伊豆衝突帯における圧縮軸の方位分布  
 丹沢山地 (点線枠内)で、地震分布が東西に2分され、  
 それに対応するように圧縮軸の方位がやや異なっている。

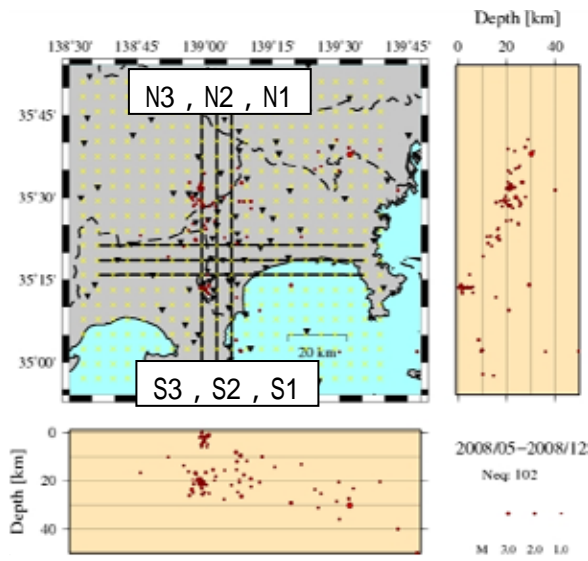


図3 解析に使用した地駅とグリッドの位置(★)。逆三角は解析に使用した観測点を示す。実際は、結果で示している各断面の位置を示す。

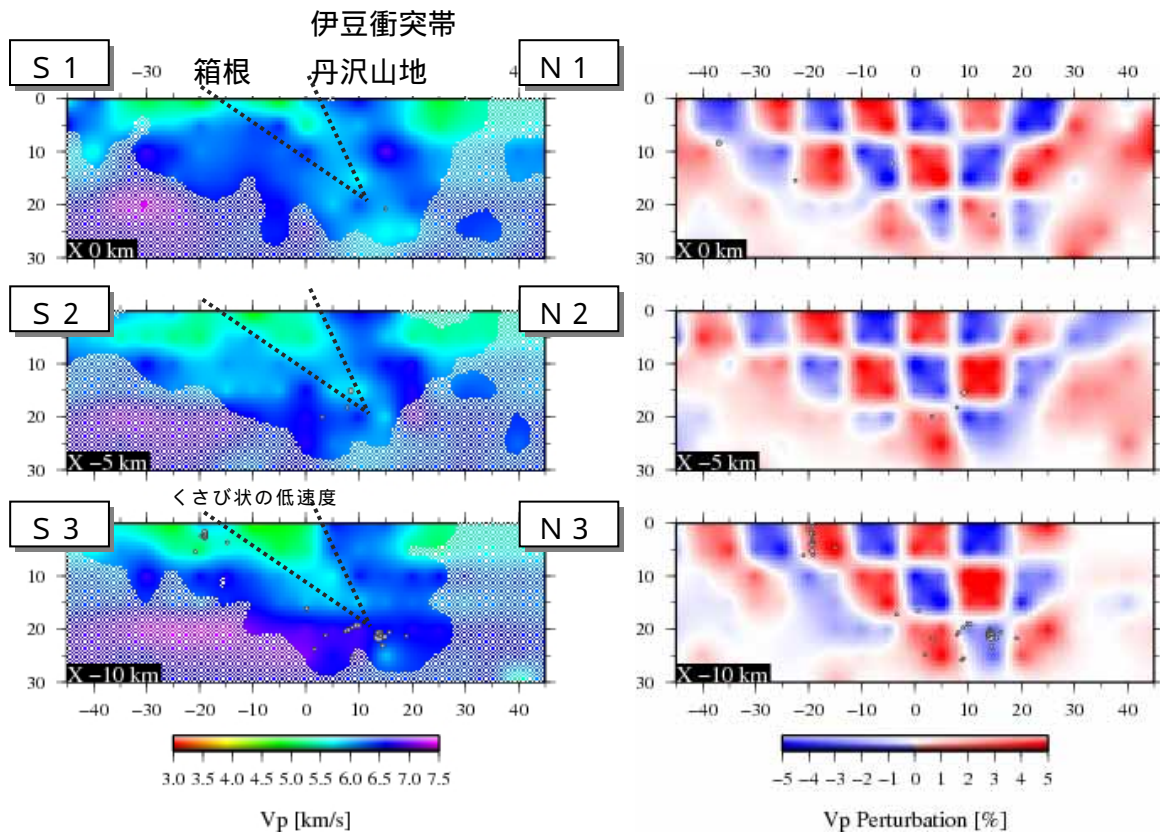


図3 伊豆衝突帯におけるトモグラフィーの結果(永井・他, 2009)

- 北下がり傾斜の高速度帯(>6.0km/s)：深さ 10~20km：沈み込むフィリピン海プレートに対応。
- くさび状の低速度帯：足柄山地~丹沢山地直下：衝突付加した「トラフ充填堆積物」に対応。
- 神縄・国府津 松田断層帯：丹沢山地下の速度境界に対応。